

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

日 時：平成 23 年 8 月 4 日（木曜） 14 時 30 分から 17 時 13 分まで

場 所：習志野市 消防庁舎 4 階会議室

委員出席者：関委員 齊藤委員 伊藤委員 小川委員 真船委員
金子委員 鯨井委員 大島委員 小宮委員 海賓委員
細川委員 大塚委員 越智委員 小池委員 （欠席：廣田委員）

事務局出席者：宮本市長 島田副市長
鶴岡部長 岡澤次長 竹田課長
佐々木係長 越川係長 中野主査 柴野

議 題：1・「習志野市の現状と課題 ～財政状況と公共施設を中心として～」
2・「後期基本計画の目標指標及び進捗状況と東日本大震災における復興への取り組み状況」

議 事 録：

	<u>委嘱状交付</u>
	<u>市長あいさつ</u>
市長	<p>皆さん、こんにちは。習志野市長の宮本泰介でございます。私が市長に就任いたしましたから、初めての長期計画審議会ということでございまして、お忙しいなか、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。平成 23 年度第 1 回ということで、ただ今、委嘱状の交付をさせていただいたわけでございますけれども、ほとんどの方が初めて就任されたというなかで行われるということでございます。これまで長期計画審議会では、実は私も 12 年間市議会議員を務めさせていただいておりましたので、そのなかで、度々、長期計画審議会の委員としても審議をさせていただいておりますけれども、習志野市の根幹になる部分、まさしく長期計画という名にふさわしい、習志野市の根幹を決めていただく、皆さんにご審議いただく、そういう機関がこの審議会でございます。ですから、皆さんのひと言ひと言が、まさしく習志野市の将来を決定付けていくと、そういう機会でもあります。皆様が思い描いている習志野市の姿、また学術的に都市のあり方とはどのようなものなのか、そういうことをどうぞ皆様の今までのご経験、あるいは職責のなかで、多岐にわたるご意見をいただきたい、そのように思うわけでございます。今回はメンバーが一新しまして、経験者はおそらく E 委員、G 委員、N 委員ですかね。そういうなかで行われるということでございますので、私自身も大変楽しみにしている審議会でございます。それと傍聴の方にも第一回目からたくさんいらしていただきまして、関心の高さを伺えるわけでありまして、その分私自身も気を引き締めていかなければならないと、副市長共々そう思っているわけでございます。どうかこの審議会に際しまして、とにかく皆様方の忌憚のないご意見をどんどん出していただきたい、そしてそれを私たち</p>

	<p>一生懸命吸収させていただきながら、いい街を一緒に創りたい、このような想いがあります。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">委員紹介</p> <p style="text-align: center;">[事務局より、委員及び職員を紹介]</p> <p style="text-align: center;">会長及び副会長の選任</p> <p style="text-align: center;">[委員の互選により、会長に大島委員、副会長に斉藤委員を選出]</p> <p style="text-align: center;">開 会</p> <p style="text-align: center;">議題 1 「習志野市の現状と課題～財政状況と公共施設を中心として～」</p> <p style="text-align: center;">及び</p> <p style="text-align: center;">議題 2 「後期基本計画の目標指標及び進捗状況と東日本大震災における復興への取り組み状況」</p> <p>[資料1「習志野市の現状と課題 ～財政状況と公共施設を中心として～」に基づき、経営改革推進室長より説明、続けて、資料2「後期基本計画の目標指標及び進捗状況一覧」及び資料3「東日本大震災への対応」に基づき、事務局より説明]</p> <p>会長 ありがとうございます。それでは、ご紹介のあった習志野市後期基本計画では、市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市を目指すというように書いてありますが、先ほどの財政状況、公共施設の老朽化等の説明を聞くと、夢も厳しい夢になりそうだという印象ではあります。それでは、冒頭に申し上げましたように、ただ今の説明に対するご質問と併せて、今後の習志野市の目指すべき都市のあり方について、各委員の皆さんのご意見を頂戴したいと思います。時間の都合もありますので、申し訳ありませんが、お一人 3 分程度でまとめていただければと思います。ご協力をお願いいたします。それでは、順番にC委員からお願いいたします。先ほどの習志野市の現状と課題、後期基本計画の進捗状況、あるいは東日本大震災における取り組み状況、ご説明のあったその点についてのご質問とあわせて、C委員ご自身の長期計画に対するお考えについて頂戴できればと思います。</p> <p>C委員 市役所が行政サービス事業者である限り、サービスを充実させなければいけないと思います。その上で一番大事なのは、財源が必要なのではないかと思います。今後、習志野市が特にやっていかなければならないと思うのは、</p>
--	--

	<p>生産人口をいかに多く、増やしていくかということ、その施策に向けたその辺が重要なのではないかと考えます。生産年齢人口と、若しくは法人が来なくなるような街づくりを展開していくことが大事なのではないかと思いました。それと、公共施設の今後負担がかかるという説明がありましたけれども、財政においても、説明のなかで元利負担があるということで、今後、私たちの子ども世代に、いい習志野市をつくるためにも元利金を増やさない財政的な部分を考慮した公共施設の作り方をしていかなければいけないのではないかと考えます。あとは施策の部分は、習志野市が大事にしなければいけないのは、施策というか、まちづくり、市民の命をとことん大切にするまちづくり、そのような部分が大事なのではないかと思えます。先ほど、企画政策課長のお話のなかで防災の件、若しくは防犯、そして今は原子力、環境エネルギー、救急救命、障害者の方へとそういった部分に関しては、とことん市民の命を守るまちづくりを展開していくべきではないかと思えます。あとは教育に関しては、公の精神を持った人間、日本人を学校教育で育成し、大人の方に対しては、公の精神を持った市民をサポートしていく、そういったまちづくりの展開が私は大事なのではないかと思っています。あとは、法人を招くという部分で財源の確保ということもお話させていただきましたが、生活していくうえでは、雇用という部分が大事ではないかと思えますので、法人を招くという部分では財源と雇用を誘導することが大事なのではないかと思えます。なかなかまとまりませんが、雑駁ですけども。そのようなまちづくりがいいのではないかと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>前半についての一部ご質問的なところもありましたけれども、生産年齢、人口を増やして財源の確保とか、あるいは法人を招いて雇用の誘導とか、現状を打破していくうえでの具体的などころというのもあったかと思うのですが、その辺については何かお答えは。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>具体的にというのは非常に難しいですけども、今後の土地利用ということも課題になってくるかと思えます。今ちょうど JR 津田沼駅前に 35ha の開発ということが進められておりまして、皆様ご承知のことと思えますけれども、計画ではあそこに 2,800 世帯、7,000 名という人口が想定されております。そういう意味では習志野市は限られた面積ではございますけれども、まだまだ有効活用できる土地もございます。一方では農地ということでそれを保存しなければならない部分もあろうかと思えますが、その辺もうまく考えながら土地利用を進めていかなければいけないのかと。具体的には申し上げられないところもありますけれども、事務局としてはそのような考えを持っております。</p>

<p>会長</p>	<p>今後その辺も含めて、ここで具体的なものを示せればと思います。時間もありますので、では J 委員お願いします。</p>
<p>J 委員</p>	<p>限られた時間ですので、あまりお話もできないですけれども。私は今のお話も聞いておまして、これからのまちづくりということで財源の確保、これは間違いなく必要であり、重要な課題であるとしっかり受け止めているところでございます。財源がない、困難である、だからこそこれからは住民のニーズに合った役所の発想、そのような転換をしていくべきであると思います。住民が何を必要としているのか、このところに現場の視点というものを大きく考えながらそこに焦点を合わせていく、そのなかから限られたなかでの考え方というものが大事であります。人、人間ですね、視点、そこをしっかりと、目先のことも大事です。しかし、20 年後、30 年後という大きな視点に立って考えていくなかに、今の目先のことも並行しながらしっかりとやっていかないと焦点がぼけてしまうのではないかと感じております。先ほど扶助費がこれからも右肩上がりが増えていくというお話がございました。ここをどう削減できるのかということも大きな視点になっていくと考えます。生活保護費、児童福祉費、また老人福祉費とございますけれども、そこを生活保護なら、生活保護になってからどうするのか考えるのではなく、その前のその人の生き様だとかそこに至るまでの過程、そういう部分をしっかりと窓口サービスから個別の支援へということで、市民さんのなかにしっかりと入り込み、よく見てあげながら、大きくならないことがとても大事だと思います。そのうえで、習志野市はヘルスステーションもございますし、地域保健活動をしっかりと手を入れながら、そこに高齢者福祉、児童福祉、様々な母子保健、そことしっかりと連携を取りながら、食い止めていく、その部分に力をいれていっていただきたい、していかなければいけないと思っております。つまり、財政困難な習志野だからこそ、人であると、この人に焦点を当てて人をどう活かすか、また職員のスキルアップがあつてこそ、市民のニーズに叶い、市民の幸福が勝ち取れるのではないかと私は考えております。短い時間でうまく言えませんが、よろしく願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとうございます。住民のニーズの汲み上げ、人の大切さ、この辺について、事務局の方では何かコメントは。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>ニーズの把握については時機、時機において市民意識調査、アンケート調査を実施していかなければいけないと思っておりますし、そういう意味では</p>

	<p>昨年ちょうど実施させていただいております。また、震災という大きなこと もございましたので、次期基本構想策定に向けては、昨年の市民意識調査は 3,500 名程度の無作為抽出で行いましたけれども、その人数をより多くの方 から意見を聴くという調査であったり、また市民討議会なるような会議を設 けたりというようなことも考えいかなければいけないのかと、思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとうございました。では I 委員。</p>
<p>I 委員</p>	<p>先ほどからお話を伺っております。今、習志野市で抱えております課題 は、3 点という視点でお話があったかと思えます。まず 1 点目が財政、2 点 目が公共施設の老朽化、3 点目が少子高齢化の問題、これが基本となってこ れからの習志野市の課題解決に向けてのまちづくりが進んでいくのではない かと私自身考えております。このなかで、財政の部分では先ほどもお話がで ておりましたけれども、いかにして収入を得ていくかのなかで、今、C 委員 からお話がありましたように、生産年齢人口、子育て世代の人口をこのまま 維持していけるかどうかという、まちづくりが 1 点と思っております。ま た、歳出の面では歳出削減をいかにして行っていくか、いろいろと人件費の 問題を習志野市も抱えておりますけれども、そういうところも、これからは 民間で行えるものは民にしていくというなかから考えていかなければなら ない。もう一つは土地利用のなかでこれが必要なのではないかと考えており ます。2 番目の公共施設の老朽化、これは先ほど当局から説明がありましたけ れども、ここはやはり今は施設をたくさん持つということよりも、機能、集 約をしていくという視点が必要であって、いかにして、そこに地域の人が集 まって、そこで一回で機能が果たせるような施設が望ましいのではないかと 考えております。もう一つは少子高齢化の問題ですけれども、やはり子育て 世代が安心して住める、そういう施策がこれから必要であると同時に、高 齢化も 2025 年度までには 65 歳以上の人口が現在より約 1 万人増えていく という人口構成にもなっていくのではないかとされているなかで、高齢者に 対する足の確保、そして生活支援の確保、これも重要な課題となって、この 3 点を総合的に踏まえたなかでのまちづくりの視点が必要ではないかと思っ ております。あともう 1 点は、現市長は元気なまち習志野を創りたいという お考えでありますけれども、習志野市のアイデンティティをどのように踏ま えてやっていくのか。あとまた、市の今 14 コミュニティが中心となってお りますけれども、このコミュニティをどのようにこれから考えていくのか、 そしてまた若い、先ほどお話がありました雇用という問題、地産地消、この 産業をどのようにして習志野市で生んでいくのか、ここもこれから地方に任 された重要な課題である、今、都市部が高齢化または経済状況のなかで海外</p>

	<p>にと、働く場がどんどん都市部から少なくなっている現状のなかで、若い世代を確保していくためにも、働く場というものも地元においていかななくてはいけないのではないかと、そういう視点も大変重要ではないかと自分自身考えております。そして、もう 1 点は、今言われております自然エネルギー、このエネルギー政策を我が市としても、まちづくりの視点としてしっかりおいていく、そこに雇用も生んでいくという施策もこれから必要ではないかと。自分自身は環境と共生していく、そういう視点を大事にしていく、そういうまちづくりを、まだまだですけれども、総論になってしまいますが、これから具体的に皆様とお話して、習志野市の持続可能なまちづくりを将来、子どもたちに残していける財産、施設を充実させていきたいと考えております。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほどの説明の問題点の整理と、必要なことということで問題提起をしていただきました。今後、皆で考えて行きましょうということでよろしいでしょうか。</p>
<p>I 委員</p>	<p>はい。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとうございました。次は、D 委員お願いします。</p>
<p>D 委員</p>	<p>私は農業者で、先ほど言いましたように、JR 津田沼駅南口で 35ha の開発事業がございまして、高層住宅、低層住宅、あとは農地と、都市のなかの農地というのが、年々、開発で減少していくわけですけれども、習志野の場合、若い後継者が少しずつ増えてきているわけで、そういう面で食というのが非常に疎かにされて、人間が人間であるためには食べ続けなければいけないということで、そういうことを基本にして都市が、農民と市民が手を組んで、都市だからこそ何か活性化できる農業があるわけです。私も農協としての立場しか言えないわけで、今後、いろいろと財政とかみたときに、先細る財政をみて新しい事業というのは非常に大変かと思っておりますけれども、重点的な施設を選別して、そこで皆さんで話し合っ重点目標で必要なものから随時やっていくように、先細る財政のなかで、あとはなるべく早期に公共施設を延命し、永く使えるようにしていったらよいのではないかと思います。こういう席は初めてで、いろいろ状況がわかりませんでしたけれども、まだ赤字財政ではないので、頑張っってやってほしいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとうございました。農業の視点で食の重要性について訴えていきたいと、あとは先ほど農業人口というものが急激な右下がりだったので</p>

D 委員	<p>すけれども、そういうことについて何かお考えは。</p> <p>一番は農地の減少と後継者の不足がありまして、この辺は都市ですから、どうしても次世代の人が農業を継がないでサラリーマン化してきて、高齢化した農業者が 80 歳くらいになってもうできないと、辞めていくという状況です。そういった反面、新しい人がここでまた農業をやっていく、谷津地区で 20 代、30 代の人が 3 名くらい農業をやっています。また他の地区でもやってきていますので、難しいけれども皆頑張っています。</p>
会長	<p>何とか後継者を。どうもありがとうございました。</p> <p>福島の原因関係、放射能関係では習志野ではどうなのですか。</p>
D 委員	<p>一応、放射能の検査はしまして、影響は全然ないということです。</p>
会長	<p>そこは幸いでしたね。</p>
D 委員	<p>はい、ご心配かけてすみません。</p>
会長	<p>それでは、E 委員お願いします。</p>
E 委員	<p>私はランドデザインを策定した頃から、この審議会の委員を、出たり入ったりはありましたけれども携わっていたので、先ほどの豊かな人間性と云々という、このあたりのところも経験しているのですけれども、結構いいものができて今までずっとそれなりに、今回、後期第二次実施計画まできていたのですが、先ほどの公共施設の老朽化等々も当時から話には出ていましたけれども、現実的にはやはり、前へ進もう前へ進もうというこういう計画のなかで、明るいもの明るいものと求めてきたものですから。なかなか現実、ここへきて震災でガタッと計画が変わるなという感じがしていたのですが、今日現実としてきてみて、ちょっと驚いたところがありました。習志野市に関しては、私が今まで永く携わって来てきた限りでは、小さなまち特有のコミュニティを大事にした、谷津から東習志野あたりまで、人的交流がすごくあるわけですね。いろいろなものを通じて人的交流があるということが、私はそれが一番の、このまち特有のものであるな、と。それは小さいがゆえに、特に武器になっていると、何かやる時には、そういう気がすごく強かったのですけれども。トータル的にみるより、商工業、地域でいろいろな活動をしてきたなかでは、どうしても活性化しよう活性化しようという気持ちばかり強かったものですから、小さなお祭りとか、例えば「きらっと」</p>

	<p>にしてもそうです、その前の花火にしてもそうです。最初から携わっていたのですけれども、そういうものをやることによって商工業が少しでも人が集まり活発になればいいなという想いでやってきて、それで何となくここ何年間かみていますと、それなりにその方向できてはくれていたので、一安心していたところがありまして、今日は本当に驚きました。ということで、たぶん変わっていくということと、それと施設の建替えということで、市役所庁舎等もいろいろと俎上にあがってくると思いますけれども。それと先ほど言っていた 35ha との兼ね合い、それとモリシアの後ろにある仲よし幼稚園ですか、あのあたりとすべてリンクしていくのではないかと。35ha がそれなりのまちになってくれば、仲よし幼稚園の場所がまたそれなりに付加価値が上がりますと、市庁舎をあそこにもっていく計画がないとは思わないのですけれども、そういうことも一つ考えられるでしょうし、あるいは売ってしまっただけで終わりにするのか、今あるああいうものを利用して多少でも何かお金を生む施設として活かしていくのか、そういうことも考えていかなければならないのかなと感じております。以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。いろいろな問題はあるけれども人的交流、コミュニティを大事にしていくというのは必要であり大事なことだと。それから最後の方で仲よし幼稚園という具体的なところが出ておりましたが、そちらについて事務局からコメントは。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>はい、これまでも市議会等々で話題にはなっておるのですが、仲よし幼稚園というのはちょうど JR 津田沼駅のモリシア、旧サンペデックですね、駅の方からみるとちょうど裏側に平面の駐車場があると思います。あそこがちょうど市有地でございます、そこをどう活用しようかという話題がございます。当然、高度利用しなければもったいないということで、何か有効活用できないかという議論が庁内でもずっと進められておりまして、今のところの方向性とすれば、やはり売払い処分というような方向が概ねかと思えますけれども、これもまだ当然、市議会のコンセンサスも得られていない部分もございますので、もう少し議論が必要なのかなというふうに思っているところでございます。また、庁舎の建て替えの話題につきましても、今ご提言がございまして、仲よし幼稚園跡地も使えるのかどうなのかというようなこともございましたけれども、宮本市長が「みんなでつくる市庁舎」ということを公に掲げて当選をされておりますので、庁舎については、いつどこにどんなものをするというような計画には至っておりません。ただ、実態として相当ダメージを受けているというのが現状でございますので、できるだけスピーディーに建替えをしなければいけないという認識ではございますけれども、仲よし幼稚園跡</p>

	<p>地を使えるのか、それとも従来の計画でいくと、ちょうど庁舎の反対側のグラウンドという話もございましたので、そこで建替えが進められるのかということについては、これからまだまだ、市民、議会とも会話をしていかなければならないような状況でございまして、まだ明確なお答えができないところございますが、習志野市の方向性としては、非常に大きな課題があると認識しているところでございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。次はH委員お願いします。</p>
<p>H委員</p>	<p>私の考えは、何よりも人口を増やしていく、これがまちの活力、もちろん財政面の貢献等を考えれば大事であって、先ほど現状では悲観的な感じではないようですけれども、いずれにしても生産人口云々のこともありますし、人口を増やしていくこと、これを何とか施策をからめて実現していくことが大事ではないかと思えます。JR 津田沼駅の南口の大きな開発が始まっていくわけですし、そういう意味では非常に期待が持てるという感じがいたします。これは質問になるのですけれども、新聞でもちょっとたたかれたりしておりましたが、鷺沼の千葉市との境のところは、都市計画があそこで分かれてしまって習志野のほうは、畑になっているわけですね。千葉市のほうから立派な道路が出来て、あの辺りの都市近郊農業との発展・調和が必要ですが、あそこは幕張本郷への序の口でもありますし、現状どうなっているのか、ちょっと知りたいと、あとでぜひ。人口の増、上回るというのは基本ですけれども、財政が厳しいというのもよくわかりますし、公共施設というのはいずれにしても生活関連のものにもかく重点をおいて、どうしても必要なものは予算を増やしていく、整備していく必要がありますが、あと維持補修は何か工夫しながらいくと、そのようなことなのかと。とくに文化、教育、高齢化対策等々、習志野市の看板でもありますし、これからの時代の要請でもあります、そういうものに何とか知恵を絞って細かな施策を打ち出していく、住む人に優しい文教住宅都市をもう少し進めた、文教福祉都市みたいなものがよいのではないかと、そのような感じがしております。</p>
<p>会長</p>	<p>文教住宅ではなく、福祉も見据えたような長期計画を考えていく必要があるのではないかと。人口増をどうやってやるかと。ご質問があった点については。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>鷺沼のおそらく調整区域のお話だろうと思えます。ご存じない方もいらっしゃると思いますが、ちょうど習志野市役所から京成津田沼駅と、反対方向にずっとまっすぐ行って、そのままさらにバーミヤンの交差点を抜け</p>

	<p>てまっすぐ行ったあたりに坂を上がりますと少し見えるのですけれども、幕張本郷駅まで一望できる農地がポカンと空いているのが実態でございます。そこをどうなのかということでございますけれども、実は端のほうが少し乱開発をされておりまして、住宅が建ってしまっている部分もございます。私どもとすれば、あそこに計画道路というような話もありますけれども、まずは地権者の皆様のご意向ということがひとつ、非常に重要な鍵になってまいりますので、私どもある程度、誘導しなければという部分もあるのですけれども。昨年度、一昨年度、2 年間かけて鷺沼の地権者の方々と勉強会なるものは立ち上げております。ただ、それはあくまでも地権者、農家の方が自分の土地を将来どのように活用しましょうというようなことでの意見交換ということでございます。まだ、今後も農地として活用するという方ですとか、区画整理して、売払いたいというような方ですとか、様々でありますので、なかなか方向性まではきっちり出ておりませんので、もう少しお時間はかかるかと思えます。確かに幕張本郷区域、千葉市区域とは本当に、くっきり分かれていて、畑があるということからすれば今後の私どもの土地利用のなかでは大きな課題というか、非常に貴重な土地であると認識しております。もうしばらくお時間はかかるかと思えます。</p>
D 委員	<p>補足で、鷺沼の地権者なのですが、谷津の区画整理が終わって状況を見て自分たちも進めたいというのがありまして、谷津がうまくできれば、地権者たちとしては、それを見習ってという意見もあるらしいです。</p>
会長	<p>続きまして、L 委員。</p>
L 委員	<p>今まで、委員の皆様のお話を聴いて、皆様それぞれ習志野の将来に対するお考えをたくさん持たれていると感じました。人口増加を図ることがという、お話が最初に出ていますけれども 16 万人になってから全然増えないですよ。ね。「全然」というと語弊がありますけれども。ちょっと増えたけれども、16 万人をきるとか。したがって増えるためにはどうしたらよいか、南口の開発を進めていっちゃいますが、7,000 人は人口が増えるであろうという計画でやられている。あれが立ち上がるには、先ほど D 委員もおっしゃいましたけれども地権者の方の意見をまとめることが非常に大変であったらしいと、そのように聞いています。それがいろいろなものを乗り越えて共同組合、整理組合というかたちで進められて。今、H 委員からお話が出ていたところは、私もちょっと頭に浮かんでいた場所で、私はいつもあそこら辺を通りますので。14 号側のところに少し家がバタバタと建ってしまっているのですよね。もう家が建ってしまったので、あそこの道を広げることは無理</p>

	<p>になっているなど感じています。従って、D委員がおっしゃったように谷津の区画整理事業がぜひうまくいっていただきたいと思います。それを見て地権者の皆様方が将来をどのように考えるか。とにかく農業人口が減っているのは、農家の人が農業をやりたくないという時代になっています。逆に都会で暮らしていて農業をやりたいと、どこかの山奥に移住するようなことも多少増えていますけれども、その方たちの考えは、都会的なところでやろうということではないと思うのですよね。従って習志野の将来の人口増加、生産人口の増加を図るためには、まちができれば人が住めないわけですから。例えば、東習志野のマンションも盛んにすすめられていますけれども、あれは民間でももちろんやっていますが、今の経済状況で、売れ行きが悪いというような話もきいていますし、非常に大事なことだと思います。それと皆様方がおっしゃってくださったものを進めるについて、やはり財政が少ない、財源が困難、先行きが暗いと皆様思われているし、議員の皆様方は議会活動のなかで、いろいろな知識を持たれていると思うのですが。それを言っても駄目なのですよ。無いものは無いのですから。ですから、今後 20 年間に老朽化した施設を全部なおさなければいけないとすれば、今の状況でいうと半分しかできませんという先ほどのお話でした。皆様もおっしゃったように、それではどれが一番必要なのか、その優先順位を市民と議員の皆様方と行政でしっかり真剣に検討して順位を決めていくしかない。無い物ねだりをして出来ぬものは出来ぬのですから、建替えが遅れるものについての補修とか、一時的にどういうものを利用したらよいか等は時事的な問題で、皆さん、よく検討していただかなければいけないなど。とにかくお金はないのだということが前提条件ですよ。未来のこと、絵に描いた餅にしてはしょうがないので。そのようにお考えいただければありがたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そういう厳しい状況のなかでも、審議会の役割は未来への橋をつくっていかうということですから、ご協力お願いします。ではK委員。</p>
<p>K委員</p>	<p>公募委員ですので、自己紹介も兼ねてお話をさせていただきたいのですが、私は今、千葉大の教育学部で非常勤講師として教員養成に携わっています。自分の研究としてはずっと虐待を受けた子どもたちの支援、社会的擁護について研究を続けているので、そうした教育とか子育ての観点からまちづくりについて特に考えていただければと思っております。それで今、習志野市の市立の小学校に学習支援ボランティアとして毎週関わらせていただいているのですが、子どもたちの現在の教育とか、養育の環境が現在でもまだ十分ではないと感じています。ですので、確かに財源の問題</p>

	<p>があるので、施設の統廃合は避けられないと思うのですけれども、その際に、今でもすでにもれてしまっているお子様たちがいると思うのですけれども、もれてしまう子育て家庭とか、子どもがこれ以上増えないようにというようなことを念頭においた統廃合について考えていただきたいですし、今まで委員の皆様がおっしゃっているのですけれども、ニーズに即したということで箱もので、来てもらうということだけではなく、そのマンパワーの中身をどうブラッシュアップしていくのかとか、民間との協力とかいうかたちで、どうアウトリーチしていくのかという観点も一緒に考えていただきたいと、今お話を聴いて思いました。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>統廃合は現実問題なのですが、やるうえでは子育てや教育に対することも十分踏まえ、取り組む必要があるのではないかと思います。それではB委員よろしくをお願いします。</p>
<p>B委員</p>	<p>本題から少しずれるのですが、先の震災では習志野医師会は、薬剤等用意し、宮城県に医師、看護師、薬剤師、理学療法士等を派遣しました。市の職員はもちろんご存じでしょうが、被災地で活動した医師に話をきいたところ、現在でも活動を続けているとのことでした。</p> <p>私は内科と小児科の開業医です。毎日診察していると、高齢化を感じます。先ほどのお話で、習志野市も 2030 年には高齢化が 28%になるということでしたね。これは日本の問題、世界中の問題であります。習志野市営の老人ホームはありませんね、患者さんからご家族がデイサービスやショートステイ等を利用しているが、施設に入所させたいけれども安い介護老人ホームが少ないそうで大変困っているというお話をよくききます。高額な有料老人ホームは入所できる人が限られてしまいますし、安いところは 100 人、2～3 年待ちだという話です。高齢化ということを考えなければいけないと感じます。</p> <p>それから、習志野市民の平均年収が 350 万円というのは非常に驚きました。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>習志野市民の納税者 1 人当たりの平均年収が 350 万円です。</p>
<p>B委員</p>	<p>納税者というのは、会社に勤めている方も習志野市民であれば習志野市に納税するのですか。</p>

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

企画政策課長	東京でお仕事をされていても習志野市民であれば、住民税は習志野市に納税ということになります。それでも全国ではかなり高いレベルです。
B 委員	55 位でしたよね。高収入の方、年収 1,000 万円以上の方が結構いらっしゃることに、びっくりしました。習志野市は医師も歯科医師も意外に少ないのですが。習志野市は人口 1 万人当たりの医師の数も少なかったですよ。
会長	高齢化に関して一番、考えていかなければということですね。ありがとうございました。では G 委員お願いします。
G 委員	<p>皆さんからの意見を聴きましたので、私は新しい意見は少ないのですが。長期計画審議会のメンバーも代わりましたので、長期計画審議会をどういう方向性を持って、どう取りまとめをしていただけるのか、私はそこに期待しているところです。皆様方の意見はかなり有効なご意見でございますので、それを全部達成できればこんなに良いことはないと思います。たまたま、公共施設再生計画検討専門協議会に委員として出席しておりましたので、その観点から長期計画審議会でのどのように取り上げていただけるか、お願いしたいと思っております。補足しますと、実際の財政状況は先ほど申し上げましたように、今ある施設を更新するだけで 47 億円かかると。市の予算としては半分ちょっとですね、21 億円しかない、これが現実です。これまでの習志野市のまちづくりは住民にとって便利になるように、しかも手厚く、教育施設をはじめとして、いろいろなところに様々な施設を建てた。これが、50 年周期でいよいよ補修しなければならない年月にきたことも事実なのです。これをさらに 50 年後先にどのような習志野市のイメージを考えていくか、これが一番大きな問題になると思います。そこで私どもが検討して、スローガンとして掲げたのは「選択と集中」ということなのですね。なぜかという、今まであった施設をそのまま残すことが住民にとっては一番良いのですが、それでは財政的に成り立っていかないと。そうするとどこかを集中して、どこかを統合していくケースが現実の問題として出てくるわけですね。それには住民のコンセンサスが絶対に必要ですから、住民の方達のご理解も得ながら、実行していかなければならないのが現実です。「選択と集中」をこれからどういうふうに進めていくかについては、行政の方でもいろいろと考えていくと思いますので、その辺を住民の方達と一緒にまちづくりを考えていくことになろうかと思っております。そこで、組織で言いますと、一番ネックになるのは例えば、小学校という施設が習志野市は充実しています。この小学校の建屋も教育施設全部入れて、これは学校長の全責任でやっているわけです。ですから責任が生徒やいろいろなところに及ぶのはまずいです</p>

<p>会長</p>	<p>から、他の施設、他の機能の中に入れようとしても、なかなか難しいですね。今までのしくみをちょっと変えていかないといけないだろうと、そうしますと施設というのを一つの目的ではなく、機能として何か集約できるものがあれば集約していくということです。例えば図書館、公民館、そういったものを集約していく。そして、残った余った空き地や場所を他の再開発に提供し利用するとか、そのようにして、新しいまちづくりをしていかなければいけないと思いました。ですからそれを長期計画審議会でどう取り上げていただけるか。経営改革推進室長の説明では膨大な資料だったものですから、なかなかご理解いただけないと思いますけれども。かなり大学の先生の意見も入れまして、すばらしい提言書を作りましたので、NHK でも取り上げております。全国的にも注目されているプランになっております。これをどういうかたちで取り上げていただけるか期待をいたしております。それから、「選択と集中」と言っても、何でもかんでも施設を減らすのではなくて、庁舎等は今まででも何回も話が出ておりましたけれども、当時としては贅沢だということで立ち消えになりました経緯がございますけれども、私は前から防災上、どうしても建てなおさなければならないということもあるから、新しいものも造らなければいけないと思ってきました。3 月 11 日の震災で、それが証明された。とにかく市庁舎は大きな地震がきたら崩壊するということで、行政の方でもまちづくり会議等でその辺のところを説明しながらご理解をいただいているということでございますので、私個人の立場としては、今までは建物を建てるにはそのお金を行政で積み立てていかなければ、建設できないということでございましたけれど、ご存じのように、今は行政が市財政に負担をかけず、民間の力を借りて、建設できる手法がいくつも出てきております。PFI、PPP とか、いろいろな仕組みがありますので、市の負担を少なく建物を建てる。極端に言えば、民間と共同で建て、業者が使うという発想もあるわけです。お金をかけずに建てる方法で、住民の方と一緒に、できるだけ早く住民の方のコンセンサスを得て、市庁舎の建設は進めるべきではないかと思っております。これは分散している庁舎の不便さ、行政サービスの低下にもなっておりますので、その辺からもやはり考えていかなければいかんと、これは緊急のテーマになるのではないかと思いますので、その辺も含めて長期計画審議会で取り上げていただきたいと思っております。</p> <p>はい、ありがとうございます。「選択と集中」「機能」とか「防災」とかいうことも考慮してということですね。審議会のあり方についても皆さんで考えていきたいと思いますということですね。非常に重い課題を突き付けられたというような感じですが。では、次の方。</p>
-----------	--

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

F 委員	<p>最後でほとんど言うこともないのですが、公共施設の老朽化、再生については、かなり多くの方、私もほとんど賛成なのですが。一つ、優先順位を付けるとおっしゃっていましたが、経年、年数だけで建替えを考えていらっしゃるけれども、建物の健全性というのは、年数だけで決まるものではないので、健全性は他の関係書等を使って見直すと、もしかすると少し時間が稼げる道が出てくるかもしれないと、細かい話なのですが、工夫をすれば、大きいものに集約していく、時間もかなり稼げますし、お金もそこで節約できますので、そういうことも考慮していただければと思います。文教の施策にかなり力をいれていらっしゃるということで、これからの子どもに対する教育として、子育て世代の方が大きく望んでいることの一つに「国際化に対応できる人材の育成」というのは避けられないと、そういったことに力をいただければ、外から若い世代が習志野市に入ってくることもありますので、この点も集約せずに進めていただきたいと思います。</p>
会長	<p>どうもありがとうございます。国際化ということですが、アメリカ・オーストラリア等と姉妹都市提携を結んでいるかと思いますが、そのあたりを拠点として国際化を図っていくということは考えられるのでしょうか。</p>
企画政策課長	<p>アメリカはアラバマ州タスカルーサ市と姉妹都市提携、本年は姉妹都市提携 25 周年ということで、本来であれば市長が式典に出向くというお話もあったのですが、私どもは震災被害、アラバマ州は竜巻被害ということで、なくなりましたけれども。湿地交流という部分でもオーストラリアのブリスベンとやっておりますけれども、国際化への対応ということでは非常に重要であると認識しております。</p>
会長	<p>子育てに対する重要性ということで、今のお話についてK委員のほうから何かコメントはありますか。</p>
K 委員	<p>国際化については、すみませんが、あまり。</p>
会長	<p>私たちが残っているわけですね。それでは副会長。</p>
副会長	<p>発言してよいのであれば、それでは、一委員としてやらせていただきます。現状の問題ということで、財政の状況、公共施設・市庁舎の問題、震災のこと、少子高齢化に伴う諸問題ということでこれは当然だと思います。そういったなかで、条例を見てみますと「任務」というのが、市長の諮問に応じて、長期計画の策定についての諮問・審議をするということでありました</p>

	<p>ので、すでにやっただいただいていると思いますが、今の基本構想、実施計画というのが 13 年度に始まり 19 年度までを前半として、20 年度から 26 年度までを後半としていると。後半のものをさらに前期と後期に分けていることだと思います。23 年度と 24 年度の 2 年が私たちの任期ということになりますけれども、最後の仕上げとなる時期でもございますので、進行管理と言いますか、進捗状況と言いますか、手をつけられたもの、つけられていなもの、また時代の環境が変わってきたものいろいろとあると思います、その辺を十分に検証、調査していただいで審議していただきたいなと思ひました。そういったなかで、先ほどの新たな課題をどのように捉えていくかということが必要ではないかと思ひておりました。それから、経営改革プランについても同様だと思います。それから個別の問題に関して言えば、いろいろあると思うのですが、私が常に思うのは、習志野市は総武線で南北に分断されているのが事実であると思ひます。そういったなかで橋を渡して南北をつないでいるということになります、その橋、一つにしても、震災の対応がまだ十分ではないと思ひます。それと調整区域の問題がありましたが、調整区域を除いて市街化区域の部分にはほぼ開発し尽くされているなかで、調整区域が残された。その調整区域をどのようにしていくかという課題、そこに全計画道路が通ってくるというのがあるかと思ひます。なかなかそれが進まない状況があるなかで、一方で不動産業者等によるミニ開発が非常に進んでいるという状況があります。そういったことも含めて後期の、あるいはこの 4 年間の取り組み、その次取り組みというなかで、これらの個別の問題に関して検討が必要ではないかと思ひます。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>最後のほうでおっしゃられた個別の問題に関しては何かありますか。</p>
<p>企画政策 課長</p>	<p>総武線の橋の問題もそうですし、調整区域の問題もそうですし、今後大きな課題であるという認識はございますので、皆様と共に協議をさせていただきたいと思ひます。</p>
<p>会長</p>	<p>最後になりましたけれども、私の方からは、身近なところで感じておりますのは、千葉県全体に言えることかもしれませんが、道路が非常に狭いということですよ。道路拡張とか根本的なところというのは、長期計画というふうなところで建物というものは今までも出てきているのですかね。道路自体をもう少しよくしていこうとか、あまり出ないのですかね。難しいとは思ひますが。</p>

<p>企画政策 課長</p>	<p>総論で申し上げれば、都市基盤の整備充実というようなことのなかでは当然、道路や下水道について、基本的な計画、長期計画のなかではあろうかとは思いますが、個々具体なところでいう幅員等々の話題になりますと非常に近接住民の方のこともございますので難しい課題であると思います。今は建替えの段階になりますと中心から 2m あけるということもございます。そういう意味では少しずつではありますが、ご協力をいただきながらということでやらせていただいているというのが実態でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>審議会に対して考えていたこととしましては、大学もそうなのですが、情報公開ということが言われておまして、各大学でどういう方針で教育をして、どういう学生を育てるのか、どういうカリキュラムを用意して実現していくのかというようなことをウェブでも公開するというのが、この 4 月から求められています。同じようなことが習志野市全体にも言えることかと思っておりますので、ここで考えたことや問題点、提言等を情報公開していくことをやっていくべきなのではないかと考えておりますので、情報公開がスムーズにいくような方策を考えていくと。実際、今までも数値目標として、このようなことは何年までにやるというようなことは出ていますので、下地は十分あると思っております。ここで、これから 2 年間、皆さんと一緒に考えていった結果、途中経過も含めて情報公開していければと考えております。情報公開で身近なところから聞かれたことで、大震災のことに関してなのですが、液状化の問題で「資料 3 東日本大震災への対応」ということで、9 頁の現地視察の状況ということで、菅総理と森田知事の写真正が出ていて、お二人が何をみているかということ、そこは菊田川の簡易処理施設というところですね、そこは液状化が原因で下水関係のところ相当やられて、それで何か違う水路を作ったのですかね、その時に多量の塩素を使ったというふうなことで、知っている人というのは、香澄の方で漁師をやっている、漁師さんなのですが、その下流の方で白っぽい水が流れて、相当、魚が全然なくなったというふうなことを聞いているのですね。そのようなところでも情報公開というのが非常に不十分だということを言われました。その辺のことはどうなのでしょうかね。</p>
<p>企画政策 課長</p>	<p>実は、総理が来るよというお知らせについては、地元で混乱ということもありますので、事前の情報というのはかなり控えていた部分があるかと思っております。事後につきましては、やはり的確に状況をお知らせすべきということもあろうかと思っておりますけれども、そういう意味では市議会の方からもいろいろとお叱りを受けまして、市議会にもそれなりの報告をさせていただいております。それで、ホームページ上では、一応情報提供をさせていただ</p>

	<p>ているところでございますけれども、確かに紙媒体というのでしょうか、一番市民の皆様がご利用いただけるというなかでの広報まで使ってということは、今回はしなかったという実態はございます。ただ、私どもなりに、やはり、災害時情報発信というのは非常に難しかった部分がありますけれども、やはり的確な情報を的確な時期にということについては、十分、今回を教訓に今後見直していかなければいけないのかという認識でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>できるだけ紙媒体での情報、インターネット等があまり得意でない方達、年齢のいった人達は多いかと思しますので、そういう方たちが納得できるような情報を、そういう形で情報提供をしていただければと思います。</p>
<p>企画政策 課長</p>	<p>ちなみに袖ヶ浦、香澄地域におきましては、液状化被害が非常に大きかったということで、下水道の利用についても非常にご不便をおかけしましたので、そういう意味では、市長、副市長も現場に出向いて説明会等々を開催させていただいております。ですから、おそらく香澄の地域の方々については、この実態についてはご存じいただいている方がほとんどだったろうと思います。ただそれが山側の方々にとって十分な情報提供ができたかと言われると、そこは私どもも反省しなければいけない点もあるのかという認識でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>魚がいなくなったということで、水質調査とか水の分析等ですね、その辺はやられる予定はあるのですか。</p>
<p>企画政策 課長</p>	<p>現場はですね、実は污水管が、根幹のところをやられてしまいましたので、はっきり申し上げますと、污水を雨水管につないで菊田川にそのまま放流をするというような措置をとらせていただいております。そういうことの中なかでは、菊田川をそれなりに消毒しないといけないということで、先ほど先生がおっしゃった塩素というお話であったかと思えます。この簡易処理施設のなかで当然、污水が入っていますから塩素を使っております。上澄みの十分消毒ができた水をそのまま流し、下に沈殿した部分については、バキュームで吸い上げということの中なかで、私どもなりにベストというのでしょうか、ベターというのでしょうか、最善の努力をさせていただいたうえで、市民の皆様のライフラインを確保させていただいたということでございまして、今現在、水質が一定基準保たれているか、この辺については、船橋漁協をはじめ、漁師の皆様にもご理解をいただいたうえで、おそらく魚自体があそこからまったくというか、減ったというような実態は、客観的なデータというのは難しいと思っておりますけれども。</p>

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

<p>会長</p>	<p>漁師さんの話では、このままだと船橋の方から、向こうの漁師さんの方から文句が出てくるのではないかということでした。</p>
<p>企画政策 部長</p>	<p>補足させていただきますと、簡易処理施設はもちろん暫定的な措置でございまして、実態としましては担当が話したとおり、大きな下水処理管が使えなくなってしまいましたから、雨水管の方に接続して菊田川に流しますと、その時に当然、流すにあたりましては、船橋漁協さん、あるいは千葉県の指導、あるいは関係所管の方に十分伝えて、もちろん当然として許されるものではございません。ただこういう事態のなかでいろいろとさせていただき、適正な指導を受けたなかで、処理施設が作られ、現在私が補足させていただきますのは、この措置については 6 月末日をもって雨水管を通じて菊田川へ流すというこういうことについては、終了しております。現状のなかでは津田沼浄化センターのほうに接続して処理施設のほうで適切に処理が行われ、現在は雨水のみが菊田川に放流されております。作られた簡易処理施設につきましては、河川として従前の機能が果たせるように矢板を根本のほうから切断して従前の状態に戻します。現時点では、汚水が菊田川に流れていくと、こういう状況はないということでご理解いただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>大きな震災ですので、緊急時いろいろなことがあったかと思います。</p>
<p>企画政策 部長</p>	<p>やむを得ない状況ということで、このような措置をとらせていただきまして、漁協関係者、周辺住民の皆様方には悪臭等で大変ご迷惑をかけたということは十分お詫びしなければならないこととございます。所管は下水道所管部ですけれども、そういう事態のなかで、十分に理解が得られるよう情報公開、説明をさせていただいていると認識しております。</p>
<p>会長</p>	<p>ここでも、市民のニーズというキーワードが出ていましたので、情報公開というふうなことにしても、ぜひ教えて欲しいと、そういうことにも応えていただければと思います。細かい話になってどうも。時間がたってしまいましたけれども、ありがとうございました。それでは、いろいろ出たご意見等は事務局の方で集約していただいて、今後の計画の見直し作業を進めてほしいと思います。</p> <p>では、次の議題は「その他」ということになっていますが、事務局の方から、次回の開催予定等、連絡事項がありましたら。</p>

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

<p>企画政策 課長</p>	<p>初回ですので、最後に改めて部長からごあいさつさせていただきます。</p>
<p>企画政策 部長</p>	<p>それではですね、本当に長時間、皆様方には熱心にご議論頂戴いたしました。いろいろご意見をいただいた部分は、十分踏まえて、これから計画策定という部分のまず初期の段階では現状把握、市民ニーズの把握、あるいはこれからの人口の動向、こういうものの調査に入ってまいります。そして、皆様方からご意見を頂戴しながら、私どもは素案を策定ということに向かっていくと、その過程、過程におきまして、しっかりと情報の提供、やがて素案について審議というかたちのなかで、成案に向けた作業、こういったことになろうかと思えます。しっかりと市民の皆様方に情報を提供しながら、ご意見を頂戴してまいりたいとこのように考えておりますので、またひとつ、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>もうひとつございます。これから 9 月の議会に向けて、内部的にまだしっかりとコンセンサスがとられたかたちではございません。ただし、これから皆様方にご意見を頂戴していくなかで、今現在の基本構想が 26 年度までということでございます。これを今、考えておりますのは、今回震災の影響を受けました。こんななかで、改めて市長も宮本新市長が誕生しました。市制 60 周年が 26 年度から、新たな 60 周年というかたちで節目の年を迎えます。このようなかで基本構想そのものを 1 年前倒したなかで、作業をすすめるべきという考え方も私ども今検討しているところでございます。</p> <p>冒頭申し上げましたように、今後、</p> <p>作業工程等も加えて、事務局として考えていることをお伝えできればと思っております。作業のなかで忌憚のないご意見を頂戴できれば、ご指導いただければ、このように思っております。本日は本当にありがとうございました。</p>
<p>C 委員</p>	<p>よろしいですか。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、どうぞ。</p>
<p>C 委員</p>	<p>わかりにくかったのは、長期計画審議会が長期計画の策定についての調査・審議をするという任務になっているのですけれども、今後、私たち審議会としてはどのような作業、審議に入っていくのか、その辺について教えてください。</p>

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

<p>企画政策 課長</p>	<p>長期計画審議会の今後というお話のなかで、お答えに代えさせていただきたいと思います。まず、今年度、次回を年明けくらいに予定をさせていただいております。その年明けのなかでは、現在、現行の基本計画における実施計画というものが今年度スタートしたというようなことでございますけれども、その一部見直し作業についても必要性を生じてきている状況でございます。そうしたことのなかで言いますと、現実実施計画の見直しに関するご意見等々について、おそらく年明けの次回の審議会のなかでご意見、ご協議いただければというふうに思っております。それからまた来年度以降のお話になってまいりますけれども、基本的には長期計画審議会において総合計画、長期計画というものをご審議いただくというようなかたちになりますので、次期基本構想の策定に向けては当然、市民の皆様の意見を聴くポイント、それから庁内での策定委員会、プロジェクトというようなものも立ち上げる予定でございます。ですから庁内でのプロジェクト、それから市民へ意見を聴く部分、それから皆様のこの審議会のなかでのご意見を伺う部分ということのなかで、率直に申し上げれば、やはり次期基本構想の策定に向けては、施策の体系を基本的には一から見直すというようなことも必要になってくるかと思っております。26 年度以降、27 年度以降については、現在の基本構想がもう最終クールに入っているということのなかでは、この審議会のなかで現状を検証していただきまして、更に次期基本構想の策定に向けては、施策の体系等々を創り上げるにあたってのご意見、提言といったものを皆様のなかにも求めていきたいと思っております。そのようなことでよろしいでしょうか。</p>
<p>C 委員</p>	<p>そうしますと、第二次後期基本計画の策定を見直すための調査、審議を長期計画審議会でも諮ると、平成 27 年度以降の基本計画を策定するうえでの基本ベースをこの長期計画審議会でも審議していくと、そのようなことでよろしいですか。</p>
<p>企画政策 課長</p>	<p>実施計画の見直しに関する部分もご審議いただきたいと思います。実施計画は今年度からスタートしたわけですがけれども、震災前からの計画でもありますので、現在の実施計画の見直しについてもご意見をいただきたいと思いますというふうに思っておりますし、また今度、次期構想に向けましては、通常、基本構想、市町村の総合計画を組み立てるにおいては、速くて 2 年というような計画期間が必要ですので、この計画期間のなかで、極端に言うと 2 年間ないし 3 年間と、任期は 2 年間でありましてけれども、この任期のなかで、次期基本構想の策定に向けて、骨組みから一からできればご意見を頂戴したいと事務局としては考えているところでございます。まずは現在の実施計画、末端の計画ですがけれども、この見直しにご協力いただく部分と次期基本構想の策</p>

平成 23 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 会議概要

会長	定に向けてのご協力の部分と、そのような感じでお願いしたいと思っております。
会長	よろしいでしょうか。それでは年明けの開催ということで、日程は事務局から改めて連絡があるということですね。
企画政策課長	はい。
会長	それでは、本日の審議会を閉会します。長時間にわたりご協力ありがとうございました。
	<u>閉 会</u>
	17:13 終了